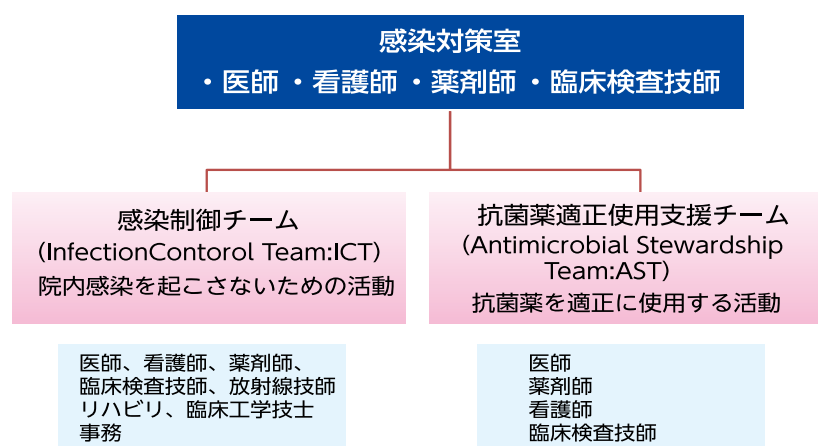


理念

患者中心の医療・良質な医療の提供

大垣市民病院の感染防止対策に関するチーム



時々、ニュースなどで「院内感染」についての報道を聞いたことがあると思います。院内感染とは、感染症の治療以外で入院された患者さんが病院内で感染症にかかることをいいます。患者さんだけでなく、ご家族・来院者、病院スタッフなども対象となります。

なぜ、病院内で感染が起こりやすいのでしょうか。病院には高齢の患者さん、糖尿病などの基礎疾患がある患者さん、手術を受けた患者さん、抗がん剤や免疫抑制剤などを使用している患者さんなどが多く入院されています。

病院を病原菌から守ろう

みんなで取り組む感染対策・抗菌薬の適正使用

大垣市民病院の中に感染対策室があることをご存知ですか？

時々、ニュースなどで「院内感染」についての報道を聞いたことがあると思います。院内感染とは、感染症の治療以外で入院された患者さんが病院内で感染症にかかることをいいます。患者さんだけでなく、ご家族・来院者、病院スタッフなども対象となります。

なぜ、病院内で感染が起こりやすいのでしょうか。病院には高齢の患者さん、糖尿病などの基礎疾患がある患者さん、手術を受けた患者さん、抗がん剤や免疫抑制剤などを使用している患者さんなどが多く入院されています。

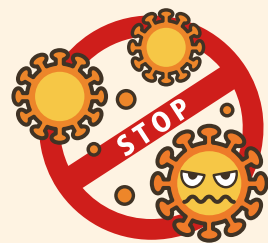
最近では新型コロナウイルス感染症が世界中で大流行し、毎年冬にはインフルエンザやノロウイルスが流行します。薬剤耐性菌（特定の種類の抗菌薬が効きにくくなる、または効かなくなった細菌）も、近年世界中で増加しています。そのような様々な感染症から患者さんやご家族・来院者、スタッフなど病院内のすべての人を守るために、大垣市民病院には感染対策室が設置されています。

感染対策室は、感染症の治療や院内感染対策を専門に取り扱う医師、看護師、薬剤師、臨床検査技師で構成されており、感染制御チーム（Infection Control Team: ICT）と抗菌薬適正支援チーム（Antimicrobial Stewardship Team: AST）の大きく分けて2つのチームがあります。この2つのチームの活動を紹介します。

感染制御チーム（ICT）の活動



感染対策室 室長 高橋 崇真



患者さんやご家族・来院者、スタッフなど病院内のすべての人を守るために、大垣市民病院には感染対策室が設置されています。

感染対策室は、感染症の治療や院内感染対策を専門に取り扱う医師、看護師、薬剤師、臨床検査技師で構成されており、感染制御チーム（Infection Control Team: ICT）と抗菌薬適正支援チーム（Antimicrobial Stewardship Team: AST）の大きく分けて2つのチームがあります。この2つのチームの活動を紹介します。

医師、看護師、薬剤師、臨床検査技師、放射線技師、事務職員など多職種で構成した感染対策の実働部隊です。ICTは、感染対策上重要な病原菌や薬剤耐性菌などによる感染症、手術後の患者さんの手術部位感染など、院内の感染状況を常に監視し、感染拡大の防止に努めています。

そのために、定期的に病院内を巡回し、感染症患者さんの治療状況や感染対策の実施状況の確認、職員へ感染対策の指導を行っています。新型コロナウイルス感染症流行に対しては、患者さんを適切に治療できるように院内の体制整備を行いました。また、患者さん以外に、病院職員を感染から守るために、個人防護具の脱着方法

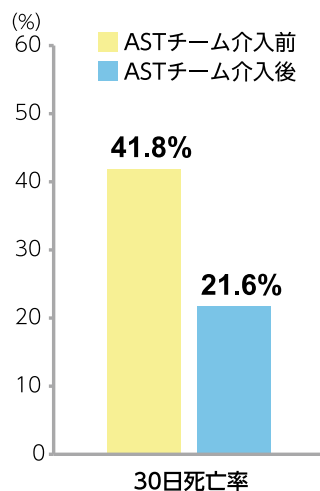


抗菌薬適正支援チーム（AST）の活動

抗菌薬適正使用支援チームとは、Antimicrobial Stewardship（抗菌薬を正しく使う手助けをする）チームを意味し、医師、薬剤師、看護師、臨床検査技師で構成されています。

どうして抗菌薬を正しく使用する必要があるのでしょうか？ 必要のない抗菌薬を服用すると、体内にいる細菌がその抗菌薬へ耐性を持つ可能性が高くなります。こうして生まれた耐性菌が周囲の人々に感染していくことで、薬剤耐性は広がってしまいます。耐性菌が増えると、抗菌薬が効かなくなることから、これまでは、感染を発症しても適切に治療すれば回復できた感染症が、治療が難しくなって重症化しやすくなり、更には死亡に至る可能性が高まるなどといった状況が出てきています。ASTチームは、抗菌薬を正しく使用するために、抗菌薬が投与されている患者さんの治療の状況を確認・巡視し、抗菌薬の投与方法や種類の変更、投与期間などを主治医へ提案するなどの活動を行っています。こうした活動により、当院では薬剤耐性菌であるメチシリン耐性黄色ブドウ球菌（MRSA）菌血症の死亡率が半減しました。

MRSA菌血症死亡率



の訓練なども行いました。これらの活動により当院では大規模なアウトブレイクは発生しておりません。他に、患者さんが行き来する近隣病院と、定期的に合同カンファレンスを行い、各病院における感染対策に対する取り組みや院内の感染管理について話し合い、西濃地域全体の感染対策にも取り組んでいます。



**抗菌薬を正しく知って、正しく服用しよう！
風邪に、抗菌薬は効かないことをご存じですか？**

薬剤師 松岡 知子

昨年、日本において薬剤耐性菌で年間8,000人が亡くなっているというニュースが話題となりました。世界においては、2013年時点のその死亡者数は年間約70万人であり、このまま何の対策も講じなければ、2050年には1,000万人が薬剤耐性菌で死亡すると推定され、がんの死亡者数を上回るといわれています。

では、薬剤耐性菌はどのようにしてできるのでしょうか？ 私たちの体の中には、たくさんの細菌がバランスを取りながら共生しており、その中には抗菌薬が効かない薬剤耐性菌がいることもあります。医師から処方された抗菌薬を、症状が軽くなったからといって自分の判断で中止し、中途半端に服用すると十分な効果が期待できず、病原菌や抗菌薬に弱い細菌だけがいなくなり、薬剤耐性菌だけが生き残り増えてしまうことがあります。また、風邪の原因はウイルスが大半であり、

抗菌薬を正しく理解して、正しく飲むことが大切です。



抗菌薬が効かなくなる前に 私たちができること

- ① 風邪には抗菌薬が効かないのでむやみに薬を求めない
- ② 症状が軽くなったからといって、自分の判断で薬の服用を止めたり、量を減らさない。医師の指示通り飲み切る
- ③ 飲み残しの薬を自分の判断で服用しない、他人に渡さない



薬剤部では大垣市の保育園や幼稚園に出向き、抗菌薬の正しい知識に関する普及啓発活動を行っています。抗菌薬や細菌とウイルスの違い、特殊な塗料を使って正しい手指衛生の仕方についてなど分かりやすく説明しています。

ウイルスには抗菌薬が効きません。このような必要のない場合に抗菌薬を服用することで、体内に薬剤耐性菌ができることもあります。こういった薬剤耐性菌の拡大を防ぐには、私たち一人ひとりが抗菌薬について理解し、適切に使用することが重要です。薬剤耐性菌に対する対策は病院だけでなくすべての人が取り組むべき重要な課題です。

「風邪」の原因であるウイルスには、抗菌薬は効きません。



看護部

誤嚥性肺炎の感染対策

誤嚥性肺炎とは

食事や飲み物を飲み込む動作のことを嚥下といいます。嚥下をしたときに誤って食事や飲み物、唾液などが気管や肺にはいることを誤嚥といいます。老化や嚥下機能の障害などによって、飲み込む機能（嚥下機能）や咳反射が鈍くなり誤嚥しやすくなります。この誤嚥によって肺炎をきたすのが誤嚥性肺炎です。

誤嚥性肺炎の予防には

○呼吸・嚥下機能の維持

○食事の工夫

○お口のケア

予防には、右記の3つが大切ですが、今回は、感染対策として、お口のケアについてお話しします。

お口のケアが不十分だと、口腔内の細菌が増加し、誤嚥性肺炎が起こりやすくなります。予防には、口腔内の細菌数を減らすことが重要で、そのためには、毎食後、睡眠前の口腔ケアが大切です。歯の表面、歯間、歯肉のブラッシングや、唇の裏の汚れにも注意が必要です。また、上顎の裏や、頬の内側には、痰や分泌物が付着しやすいので、きれいに取り除くことが大切です。



を外したら、しっかりと洗浄を行い、使用するときには清潔なものを装着する事が大切です。

高齢者や嚥下機能の障害のある方には、「舌苔」という汚れが舌によく付着します。舌苔は、細菌の温床のため、専用器具で除去することが大切です。

お口のケアは、汚れを取り除くことが大切です。口腔ケア用品は清潔な面で汚れを拭き取ることを心がけてください。汚れたものでいくら掃除しても、汚れを広げるだけで誤嚥性肺炎の予防にはなりません。

当院では、手術を受けられる患者さんに対して手術前に誤嚥性肺炎のリスクの有無を専門の医師が評価します。リスクの高い患者さんには、手術後に誤嚥性肺炎を予防するための活動をリハビリスタッフが行っています。

感染管理認定看護師

田中 広司



看護部の理念

安心と満足につながる
温かな看護の提供

医療技術部

マンモグラフィーの トモシンセシスって？

診療検査科 外来放射線室

伊藤 唯



マンモグラフィーという乳房のX線検査をご存じですか？日本人の死亡原因の第一位である悪性新生物（がん）の中で、乳がんは女性の死亡原因の上位に位置し、早期に発見することが重要な病気です。そのため40歳以上の女性は、2年に1度マンモグラフィーと触診による検診が推奨されています。マンモグラフィーでは、乳房専用のX線撮影装置を用い、乳がんの初期症状である石灰化や、小さなしこりなどを見つけることができます。

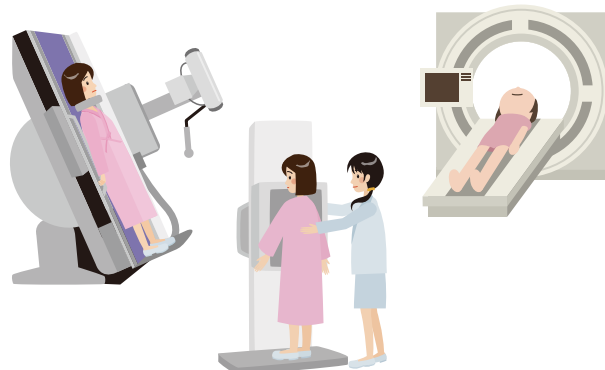
当院では、新たにトモシンセシスを搭載したマンモグラフィー装置を今年3月に導入しました。トモシンセシスとは、トモグラフィ（断層）とシンセシス（合成）を組み合わせた言葉で、マンモグラフィと同様の撮影方法により三次元画像を得ることができます。通常のマンモグ



ラフィーは二次元画像で表示されるため、日本人に多くみられる高濃度乳腺（デンスブレスト）では、乳腺が重なり病変の発見が難しくなる場合があります。一方、トモシンセシスでは、見たい所に焦点を合わせた画像を表示することが可能となり、乳腺内に隠れた病変の発見にも役立ちます。また、従来の撮影方法よりもX線による被ばくが約3割少なくなりました。その他にも乳腺外科医が乳腺の細胞を採取するマンモトーム生検において、トモシンセシスを用いることでより正確な石灰化の位置が特定できます。

当院では安心してマンモグラフィーを受けていただける環境作りとして、「マンモグラフィ検査施設画像認定」を取得しています。また、「検診マンモグラフィ撮影認定」の資格を持った女性技師が、撮影業務を行っています。皆様安心して検査を受けていただけるように今後も努めていきます。

人間ドックの料金改定



4月1日より、人間ドックの料金を改定いたしました。

(料金には消費税が含まれております)

人間ドックAコース	51,700円
人間ドックCコース (Aコース+大腸がん検査)	70,800円～
生活習慣病予防健診	29,200円～
乳がん、子宮がん健診	18,700円
乳がん検診 (単独)	15,000円
子宮がん検診 (単独)	8,700円
脳ドックコース	25,000円
PET-CT健診	107,000円
一般健康診断	8,300円～

※その他の各種健診についてはお問い合わせください。

【健診について】

- ・健診は月～金曜日の午前中に行っています。
(検査により例外もあります。)
- ・健康診断は、完全予約制です。

【予約方法・問い合わせ先】

- ・受付時間：月～金曜日の午後2時～5時
- ・問い合わせ先：健康管理センター
- ・電話：0584-81-3341 (内線1393)

患者さんの権利と責任

1. 知る権利

患者さんは、病名、症状、検査内容、治療内容と危険性、薬の効果と副作用、予想される経過、回復の可能性などについて十分理解できるまで説明を受けることができます。ただし、必要に応じて医師の判断により、ご家族や代理の方に説明する場合があります。患者さんは、薬の治験に関する医療行為について事前に説明を受けることができます。患者さんは、提供される看護内容について説明を受けることができます。

患者さんは、治療に要する見込みの費用や、要した費用の明細について説明を受けることができます。

2. 自己決定の権利

患者さんは、十分な情報と医療従事者の助言を得た上で、自己の意思により、検査、治療、治験、看護その他の医療行為に同意、選択或いは拒否することができます。

また、紹介状を請求して別の医療機関に替わることもできます。

3. プライバシーが保護される権利

患者さんには、個人の情報を医療従事者以外の第三者に開示されない権利があります。また、私的なことに干渉されない権利があります。

4. 参加と協力の責任

これらの権利を守り発展させるため、患者さんには医療従事者と力を合わせて医療に参加し、協力する責任があります。



大垣市民病院の敷地内は
全て禁煙

当院は管理規制により、病院敷地内において全面的に喫煙を禁止しています。たばこの煙は喫煙者をはじめ周りの人々にも健康上悪い影響を与えるため、受動喫煙を防止しなければなりません。病院は健康を守ることを使命とする立場から、建物内・外及び駐車場を含む敷地内全てが禁煙区域です。他者にご迷惑をかけないようお願いいたします。ご理解とご協力をお願いします。

大垣市民病院の基本方針

- ① 地域の基幹病院として、住民の健康と福祉の増進に貢献します。
- ② 患者さんの立場を第一に考え、公正且つ普遍的な医療の提供に努めます。
- ③ 医療安全を推進し、安心で安全な医療の提供に努めます。
- ④ 医学の進歩に沿って病院施設・医療機器の整備や充実を図り、専門的な医療の提供に努めます。
- ⑤ 公共性と経済性を両立し、健全な病院経営に努めます。
- ⑥ 地域の医療機関との連携を保ちつつ、患者さんに信頼される医療活動に努めます。

大垣市民病院臨床研修の理念

- ◎社会人としての規律を守り、医師としての自主性と高い倫理観を持ち、思いやりのある人格を育てる。
- ◎プライマリ・ケアに必要な幅広い診療能力を修得する。
- ◎チーム医療の一員として、安全・安心・満足の得られる患者中心の良質な全人的医療を実践する。

当院は、臨床研修病院に指定されており、次世代の医師育成のため、上級医の指導のもと研修医の臨床研修及び学生の臨床実習を行っています。

当院で一緒に働きませんか?

**病院職員
随時募集中**



大垣市民病院では、次のとおり職員を募集しています。

○職種／正職員：医師、看護師等

会計年度任用職員：

看護師、薬剤師、医療クラーク、管理栄養士、
診療情報管理士、医療補助員、看護補助員
診療放射線技師、臨床検査技師 等

大垣市民病院 採用 **検索**

○問い合わせ先／事務局庶務課 人事グループ 内線：6140

編集後記

「四季の風」70号をお届けしました。次回は7月1日に発行予定です。
「四季の風」では、今後とも多くの皆さまの声をお聞きしながら、読みやすい紙面づくりを目指してまいります。
ご意見ご要望がございましたらお気軽にお寄せください。

大垣市民病院広報企画委員会
〒503-8502 大垣市南瀬町4丁目86番地
TEL(0584)81-3341 FAX(0584)75-5715
<http://www.ogaki-mh.jp/>
(電話でのお問い合わせについては、お間違いのないようお願いいたします)